

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:平成29年度)

施設の名称	宮城県こもれびの森森林科学館
指定管理者の名称	特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会
施設所管部課(室)	環境生活部 自然保護課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘要
平成17年 4月 ~ 平成20年 3月	指定管理者	花山村(栗原市)	
平成20年 4月 ~ 平成23年 3月	指定管理者	特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会	
平成23年 4月 ~ 平成28年 3月	指定管理者	特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会	
平成28年 4月 ~ 平成33年 3月	指定管理者	特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会	

(注)管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入してください。

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指定管理者の名称	名称	特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会
	所在地	宮城県利府町神谷沢字広畑6-40
指 定 期 間	平成28年4月1日 ~ 平成33年3月31日 (5か年)	
募 集 方 法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施設の名称	宮城県こもれびの森 森林科学館	
所在地	栗原市花山字草木沢角間10-7	
設置年月	平成5年4月	
根拠条例等	県民の森等の設置及び管理に関する条例	
設置目的	森林や自然環境に対する県民の関心の高まりや、自然とのふれあいを求める人々が増加してきている中において、「こもれびの森」は、スギ等の人工林や樹齢200年以上のブナ・ミズナラ天然林をはじめ、多くの動植物が生息・生育する豊かな森林である。 森林科学館は、このような「こもれびの森」を背景にした、自然環境や森林・林業についての正しい知識・理解を身につけるための学習機能と森林レクリエーション機能を併せ持つ、県北の拠点施設である。	
施設の内容	敷地面積	森林科学館等541.91㎡, 湿性植物園等12,987㎡
	構造	森林科学館:木造平屋, 湿性植物園:池及び観察路等
	内容	森林科学館(4連マルチビジョンやジオラマシアター等の学習施設) デイキャンプ施設(広場, 野外炊事場, 野外便所) 湿性植物園 山菜・薬草見本園
開館(所)日	4月1日~11月30日(無休)	
開館(所)時間	午前9時~午後4時30分(4月~10月), 午前9時~午後4時(11月)	
指定管理者が行う業務の範囲	(1)森林科学館等の運営業務に関すること (2)森林科学館等施設の維持管理業務に関すること (3)施設利用に関すること (4)入園者の拒否等	
利用料金制	採用の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	利用料金の名称	入館料は無料だがクラフト体験、野外炊飯プロパンガス、石窯使用料は実費を徴収。

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成29年度) (A)	前 年 度 (平成28年度) (B)	評価対象年度 (平成29年度) (C)		
開館(所)日数	244 日	244 日	244 日	100.0%	100.0%
延べ利用者数	5,000 人	4,624 人	4,620 人	92.4%	99.9%

(注)対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入してください。

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成29年度) (A)	前 年 度 (平成28年度) (B)	評価対象年度 (平成29年度) (C)		
こもれびの森	5,000 人	4,624 人	4,620 人	92.4%	99.9%
	人	人	人	-	-
	人	人	人	-	-
	人	人	人	-	-
	人	人	人	-	-
合 計	5,000 人	4,624 人	4,620 人	92.4%	99.9%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成29年度) (A)	前 年 度 (平成28年度) (B)	評価対象年度 (平成29年度) (C)		
県指定管理料	7,987	7,987	7,987	100.0%	100.0%
利用料金収入	0	0	0	-	-
その他(自主企画収入)	370	447	469	126.8%	104.9%
収入計 (a)	8,357	8,434	8,456	101.2%	100.3%

(単位:千円, %)

(2) 支出

人件費	5,326	5,368	5,240	98.4%	97.6%
施設管理費	1,097	1,171	1,098	100.1%	93.8%
事業運営費(-租税公課)	1,532	1,479	1,709	111.6%	115.6%
その他(租税公課)	402	407	407	101.2%	100.0%
支出計 (b)	8,357	8,425	8,454	101.2%	100.3%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	9	2	-	22.2%
前期繰越収支差額	37	28	37	100.0%	132.1%
次期繰越収支差額	37	37	39	105.4%	105.4%

自主事業の収支実績	収 入	支 出	収 支	備 考
	397	397	0	自主事業に係る資材費・保険料等

6. 評価対象年度(平成29年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
①管理運営体制	ア)開館準備・閉館作業を確実にし、職員の勤務予定と作業予定の確認を徹底した。 イ)二人勤務体制のもと、作業の円滑化と効率化、さらに安全な作業の遂行を図った。 ウ)管理運営上の問題が生じた時、自然保護課・宮城県森林インストラクター協会の施設管理部と連携して処理に当たった。	ア)開館期間中の施設に関する管理は適切に行うことができた。 イ)管理運営方針に基づき、各職員の自発的な行動をとることができ、事故や怪我等もなく管理運営を行った。 ウ)業務日誌の活用と全職員によるミーティングを適宜おこない、情報の共有と円滑なコミュニケーションを図ることができた。	A	昨年と同様常時2人体制としたことから来客対応や管理体制も充実し、事業計画に基づいた適切な管理運営体制であったと認められる。 安全管理や注意喚起などの臨機の対応に務めており、十分な体制で管理されている。	A
人員体制	正規 6 人 非正規 2 人				
②施設・設備の維持管理業務の実施	ア)園内の整備と館内の展示物整備等は計画に基づき定期的実施し、また軽微な管理は日常業務の中で行うことにした。 イ)毎月1回、全体作業日を設定し、池の清掃・敷地内の刈払い・木道整備などを行った。 ウ)法令により義務付けられた点検作業は、管理業務計画に基づき、委託業者により適切に行なった。	ア)来館者が安全に楽しく過ごすことができるような園内環境の整備ができた。 イ)軽微な不具合箇所や破損箇所などは当館職員で補修等の対応をした。 ウ)給水設備のポンプ故障の際に、自然保護課と連絡を取り、修理等の対応をした。 エ)炊飯棟のガス配管工事を実施し、利用者の安全と利便性を図った。	A	年度事業実績報告などから、施設等の維持管理が適切に実施されたものと認められる。施設の老朽化に伴う修繕等にも適切な対応が見られる。	A
③運営業務(ソフト事業等)の実施	ア)当施設のPRについては、栗原市等の自治体広報紙、新聞、ホームページ、ブログ、パンフレット及び協会の会報等を活用し、広く県民に対して行った。 イ)国立花山青少年自然の家との連携をはかり、情報交換と当施設の利用を図った。 ウ)栗原市の各幼稚園、小学校に当施設の利用促進の案内状とパンフレットを送付し、団体利用の増進を図った。 エ)来館者に施設の案内や説明等を行って、来館者とのコミュニケーションを図った。	ア)来館者に対して積極的なコミュニケーションを図ることにより、当施設の見どころなど伝えることができた。 イ)河北新報や県政だより、栗原市広報誌にイベント情報を掲載し、ほぼ毎回定員を満了することができた。 ウ)当施設の情報紙『こもれびの森通信』をHPへ掲載したほか、関連機関への配布と花山総合支所の協力により、花山地区全世帯への配布を行った。これにより、情報提供と利用の促進を図ることができた。	A	積極的にイベント等を企画し、広報や地元紙を利用し情報を発信するなど、他の団体等と連携しながら利用者へ広く周知が図られており適切に運営されたものと認められる。 リピーターも多く、来場者の満足度も高いなど質の高いサービスを提供している。	A
④自主事業の実施	ア)「こもれびの森」ウッドランドクラブを10回、特番ウッドランドクラブを12回企画実施し、自然体験型イベントを目ざした。 イ)常設のクラフト体験コーナーでは、日常的に職員による利用者への指導を行った。 ウ)野鳥写真展、季節の花写真を常設し、パッチワーク展を開催した。また、季節に合わせてキノコの写真(10月、11月約200点)の展示も行った。 エ)図書コーナーにビデオ機器を設置し、映像による生き物の紹介を行った。また、図書を利用した「絵本読み聞かせ」を幼稚園・小学校低学年を対象に行った。	ア)各イベントでは、自然観察・野外炊飯・クラフト体験等の他に、藍染め・ヨガ教室・バッグづくりなども企画し、子供から大人まで楽しめるイベントとなり好評を得ることができた。 イ)来館者によるアンケート結果により、自主事業の内容と職員の対応に関して高い評価を得ることができた。 ウ)食品衛生責任者を置き、イベント時に提供する食品の安全な提供をはかることができた。 エ)花山小学校主催の「さくら岡まつり」に参加し地元住民、学校、団体と交流を深め協働教育に参加した。	S	継続的に実施されている自主事業も含めて、各種イベントを積極的に企画するなど参加者の増加に努めており、イベント回数を増やすなど、更なる来場者の確保に向けた企画・運営が適正に実施されていると認められる。今後もさらに自主事業の充実を図り来園者数の増加に努めてほしい。	S
⑤利用者サービスの向上	ア)園内・館内は日常業務として整備・清掃・点検を行い、利用者が満足して利用できるよう配慮した。 イ)クラフト体験コーナーは豊富な材料と、より利用しやすい環境整備に配慮した。また、展示機器等のメンテナンスに配慮し年間を通して利用可能な状態にした。 ウ)職員の対応、展示物の動作苦情等は口頭又はアンケートから情報収集し、直ちに対応するよう心がけた。	ア)入館者へ積極的なコミュニケーションを図り、クラフトコーナーの利用促進や館内、園内施設(炊飯棟の利用など)のアピールを心掛けた。 イ)イベント参加者や一般来館者からの口コミで団体利用に繋がったケースがあることから、来館者一人一人に対して丁寧な対応をおこなった。 ウ)アンケート結果から来館者の高い満足感を確認することができた。	A	園内及び管内の整備点検等を常に行うなど利用者への利便性の向上に努め、入園者に対する対応及び各種イベントへの参加者がリピーターとして増加していることなど、利用者サービスの向上が図られていると認められる。	A
⑥利用者の苦情、要望等の把握とその反映	ア)入園者、イベント参加者へのアンケートを実施し、期ごとに集計、分析を行い満足度調査(評価)を実施した。 イ)その結果を分析し、職員の対応や企画内容、募集方法やPRの方法を改善した。 ウ)利用者の要望などは職員のミーティングで共有を図った。	ア)アンケートで「職員・スタッフの対応はいかがですか」の質問に対し、上期は回答者の100%の方が「好感が持てる・普通」と回答。また下期も同100%が「好感が持てる・普通」との高い評価を得た。 イ)来館者対応でのトラブル・苦情等はなかった。	S	利用者の満足度も高く、利用者からの要望等に対する対応などについても、迅速かつ丁寧であり適切であると認められる。今後も引き続き利用者への丁寧な対応に努めてほしい。	S
⑦安全対策	ア)館内・園内の巡視を日常業務とし、事故や火災等の防止に努めた。 イ)イベント開催時には参加者の事故防止、食中毒防止に特別の注意を払い、イベント実施計画書に救急医療機関を記載して、緊急時に備えた。 ウ)イベント実施時に協会の安全委員会より安全パトロールを受け、参加者の安全の確保についての外部(協会)評価を受けた。	ア)館内・園内での事故、火災等の発生はなかった。 イ)火災防止の為に、園内に禁煙の掲示板を設置。また熊出没注意の掲示を出して注意を喚起した。 ウ)AEDの設置に伴う、救急救命講習を職員全員が受講した。 エ)通常の開館日に防災訓練を行い、入園者の安全を図る訓練を実施した。	A	巡視による点検や危険周知といった安全対策に注力し、緊急時における連絡体制及の周知や安全確保対策を図るなど、適切な管理運営体制により来場者の安全確保に努めているものと認められる。	A
⑧県民の平等利用	ア)県民の宗教・信条等を尊重し、利用来館の制限をしないよう配慮した。 イ)県民(利用者)が自由に参加利用できるような案内やホームページ、広報等の文面に配慮し、利用者への言葉遣いに十分気をつけた。	ア)当施設を利用する県民(入園者)に不平等な扱いは一切なかった。 イ)高齢者や障がい者に対しては、来館時に必要な支援を行い、安全かつ安心して施設を利用することができた。 ウ)入館拒否は一切なかった。	S	広く県民に対して利用を促すように考えられた運営内容であったと認められる。	A

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
⑨個人情報の保護	ア)個人情報保護に関する条例、及び協会が定めた指針により適切に対応した。 イ)特にイベント等参加者名簿、サポーター登録名簿等の管理は確実に行った。	ア)職員・サポーター名簿の外部持ち出し禁止、職員以外の閲覧禁止を厳重に行った。 イ)参加者名簿を厳重に保管し館外への持ち出しを厳禁し、個人情報の漏れがないよう配慮した。	S	個人情報の保護に関する重要性を職員全員が認識し、適切な対応や書類の管理行われていると認められる。	A
⑩利用実績	ア)入園者数は合計4620名(前年比99.9%、計画比92.4%)の利用数であった。 イ)野外炊飯場利用者数は888名(前年度933名)、クラフト体験者数は635名(前年度768名)であった。 ウ)ウッドランドクラブと特番企画の参加者数は各回ほぼ定員を満たすことができ、609名(前年度564名)であった。 エ)入園者の内訳は、一般入園者が3,308名で、団体利用が1,312名であった。	ア)上期は、6月以降の天候不順が影響し2,469名(前年同期比101%)にとどまった。 イ)下期は、2151名(前年同期比98%)と前年同期とほぼ同数で、8月の天候不順が影響し大幅な増加とはならなかった。 ウ)イベント(ウッドランドクラブと特番企画)の定員数を参加者の安全面から少なめに設定したが、イベントの回数をふやすことにより前年度の実績を上回ることができた。	A	H27.9.11豪雨による県道岩入一迫線の閉鎖による影響から、事業計画に対して10%強の利用者減となっているが、各種イベント開催の周知等により参加者がほぼ定員に達しているなど集客に対する努力が認められ、広報や地元紙での宣伝が集客効果を発揮したものと認められる。 結果的に来場者数は、計画及び前年を下回ったものの落ち込み幅は最低限に抑えたものと認められる。	A
⑪収支実績	常にコスト削減をめざし、費用対効果を考えながら効率的な運営を図った。	ア)収支合計では2,367円の黒字となった。 イ)人件費は5,239千円(予算5,326千円)で予算の範囲内におさまった。	A	適切に事業運営が実施されたと認められる。	A
⑫その他の取組	ア)幼稚園、小学校、PTA、子ども会、公民館などの団体の誘致を積極的におこなった。 イ)障がい者施設の利用促進を図った。 ウ)県北部地方振興事務所、国立花山青少年自然の家、自然着の館(道の駅)、花山小学校協働教育推進委員会との連携協働を図った。	ア)幼稚園、障がい者施設、公民館、子供会の利用が定着した。 イ)県北の自然体験施設として、栗原市を中心に知名度の向上がみられた。 ウ)自然体験のフィールドとして、園内の木道の整備、一桧山県有林の歩道整備、また、水槽を多数設置するなど館内展示物の充実を図った。	A	地域の学校等の環境教育の場として広く認知され利用実績も向上しており、また施設内の体験活動の場の充実化を図るなど、さらに県及び市町村の関係機関との連携を図りながら事業と運動して実施が図られるなど、適切な取組が実施されていると認められる。	A
総合評価		長期にわたり閉鎖されていた県道249号線が4月末に開通したものの、入園者数はほぼ前年度並みであり、入園者の増加にはつながらなかった。しかし、入園者のアンケート等からは利用者の高い評価と満足度をくみ取ることができ、施設の運営・維持管理等は適切であったと考える。来館者のニーズに答え、子供からお年寄りまで質の高いサービスが提供できた。また、安全安心な施設づくりに努めた結果、入園者の事故等はなかった。	A	利用者は昨年と同程度であり、長年にわたり閉鎖されていたことが影響しているのか、開通後も入園者の増加に繋がっていない。しかし、来園者に対するサービス面や運営面を鑑みると施設の管理としては良好と認められる。	A

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	ア)建物の老朽化、シャッター設備の一部動作不良と老朽化が進んでおり、早急な対応が必要とされます。また野外テーブルやベンチなど一部補修を行っているものの、腐食が進んでいます。 イ)山菜薬草見本園、湿性植物園は日々の整備では十分な整備が行き届かない状況にあり、抜本的な対応が必要です。 ウ)利用者アンケートに、トイレの改修を望む意見が見られます。特に外トイレに関しての要望が多くなっています。	ア)指定管理者において修繕対応が可能な箇所等については、対応をお願い致します。なお、H30年度で最後となる展示改修工事等により順次整備していきます。 イ)見本園等については、今後機能回復等を図るための検討を行ってまいります。 ウ)状況を確認し財政部局への予算化を促す等検討します。